


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)


 No.40

## ● ● ● 目 次 ● ● ●

・特集：日本生殖看護学会の将来構想(1) .....	1
・第13回学術集会のご案内 .....	2
・これから行われる学会・研修会情報（2015.3～2015.6） .....	3
・研究助成のお知らせ .....	4
・勉強会開催報告（山陰地区） .....	5
・勉強会開催報告（関東地区） .....	5
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿 .....	6
・もし不妊看護の現場で行き詰ったら・・・ .....	7
・理事会報告 .....	7
・選挙の告示 .....	8
・事務局からのお知らせ .....	8
・編集後記 .....	8



## 特 集

## 「日本生殖看護学会の将来構想を考える」

日本生殖看護学会理事長 野澤美江子

改めて新年のご挨拶をさせていただきます。本年も本学会へのご支援どうぞよろしくお願いたします。

昨年総会において、平成26年度事業計画の中で将来構想を提案させていただきました。昨今の生殖にまつわる社会変化を見ていると、晩婚による不妊カップルの増加や第三者が介在する生殖医療の実施、さらに、がん患者の妊孕性温存のニーズなどがあげられます。それらをふまえ、理事会で将来構想の中心課題を検討しているところです。そこで、今回は、現在までの検討状況を会員の皆様にご報告させていただきます。

## 日本生殖看護学会の将来構想を踏まえた目標

喫緊の短期目標としては、以下の4点に取り組みたいと考えております。

## 1. 生殖看護を定義し、概念化する

不妊看護から生殖看護へと学会の名称の移行は遂げました。生殖医療をとりまく社会が刻々と変化している中で、生殖看護とは何か、誰を対象とした看護であるのかを会員間で共有でき、合意できる定義が必要ですし、それは、生殖看護行為を立ち返って確認できるものになると考えます。

## 2. 生殖看護のコンピテンシー（能力、行動特性）を明確にする

生殖看護の概念化と合わせ、生殖看護のコンピテンシーの枠組作りを行う予定です。質を担保し、そのコンセンサスを得るためには、お金も時間も必要な作業になることが想定されます。そのため、新年度研究資金を

確保し、取り組む必要があります。なお、検討に当たっては、諸外国で活用されている生殖看護教育やトレーニングのフレームワーク等を参考にする予定です。

### 3. 学会活動を見直し、会員の満足が高まるような活動充実をはかる

上記1.2の学術的な貢献に加え、会員サービスにも力を入れていく所存です。会員の皆様にご満足いただけるように、下記の点について検討を考えております。

- 1) 地区勉強会の位置づけの明確化（会員および認定看護師へのヒアリングなど）
- 2) 生殖医療・看護関連の情報発信（現行のHP、ニュースレターの改善点の洗い出しと提案）
- 3) 学会誌の電子化（オープンアクセスの方法を検討）
- 4) 診療報酬における三保連との連携（関連学会の医師との連携を検討）

### 4. 関連職種・関連学会との具体的な連携をはかる

生殖看護に関わる看護職だけに限らず、利用者を含む生殖医療に関わる他職種、またその学会等と連携を図りつつ学会の発展に寄与しています。

今後も生殖看護を取り巻く社会の情勢をふまえ、引き続き理事会で中期長期目標を検討していく予定であります。これらの将来構想につきましては、ニュースレターや学会ホームページを通じて、会員の皆様に経過を発信していきますので、忌憚のないフィードバックをお待ちしております。学会事務局までご連絡ください。

## 第13回日本生殖看護学会学術集会のご案内

地域・社会と未来に繋げる生殖看護

2015年9月13日（日）開催 岡山国際交流センター 岡山国際会議場

第13回の学術集会メインテーマは「地域・社会と未来に繋げる生殖看護」を掲げました。日々進化する生殖医療に伴い生殖看護の担う役割はますます拡大してきています。地域や社会のなかで、将来を見据え、私たち生殖医療に携わる看護職に何が求められているのか、どのような看護活動をするべきか考える機会としたいと思います。開催地である岡山の地域専門家の取り組みや、医療機関連携の課題を紹介し、「未来に繋げる生殖看護」のための活発な意見交換ができるようプログラムの準備を進めております。皆様の参加をお待ちしております。

（会長 定本 幸子）

☆参加申し込み方法 ※事前申し込みは8月31日までをお願いします。

事前登録：会員5,000円 非会員6,000円 学生（大学院生・研修生は除く）1,000円

当日参加：会員6,000円 非会員7,000円 学生（大学院生・研修生は除く）2,000円

振込先【口座名義】第13回日本生殖看護学会学術集会 \*振込用紙はございません

●ゆうちょ銀行から

【銀行名】 郵貯銀行

【記号】 15430

【番号】 34244001

●ゆうちょ銀行以外の金融機関から

【銀行名】 郵貯銀行

【店名】 五四八（読み ゴヨンハチ）

【店番】 548 【預金種目】 普通預金

【口座番号】 3424400

◆お振込後に下記、参加申し込みアドレスより参加の申し込みをお願いします。

第13回 日本生殖看護学会学術集会 参加申し込みアドレス：[sanka@jsfn13.com](mailto:sanka@jsfn13.com)



## 平成27年度研究助成のお知らせ

会員の皆様の研究活動支援として、研究助成制度を設けています。

詳細および申請書類につきましては学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) をご参照下さい。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

### 研究助成募集要項

#### 【研究助成の趣旨】

生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

#### 【助成の対象】

個人又は共同の研究者を対象とする。

#### 【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

#### 【助成金】

研究助成金は研究計画一編につき10万円を限度とし、当該年度の研究助成は2件までとする。

#### 【研究助成期間】

平成27年9月1日～平成28年8月31日までの1年間とする。

#### 【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、2部（正1部、副1部）を下記担当者宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：平成27年4月1日（水）～6月30日（火）

#### 【選考及び助成の決定】

研究助成審査会において選考審査の上、平成27年8月下旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

#### 【助成金の使途】

研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

#### 【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は、研究が終了後、その結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

#### <お問い合わせ・申請書類送り先>

川元 美里（将来検討委員会 幹事）

〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号

聖路加国際大学

TEL/FAX 03-6226-6381 E-mail: jsfnshorai@gmail.com

## 2014年度山陰地区勉強会報告

報告者 内田クリニック 永島百合子

2014年11月22日、鳥根県主催で「家族のかたちシンポジウム」～里親制度・生殖医療／多様な家族を形成するための関係機関の連携と協働に向けて～が開催されました。本年度の山陰地区勉強会はこのシンポジウムに企画から関わり、鳥根県との共同開催という形で開催致しました。

2013年度に引き続き、不妊カップルの治療以外の選択肢への支援を目指すことを目的としました。昨年度の勉強会では、今後児童相談所と医療機関の連携をいかに築くかという点が課題としてあがり、本年度は行政と医療機関、里親会、また大学の研究者等多職種の合同の勉強会へ発展することができました。午前中に、児童福祉関係機関と生殖・産科医療機関の円滑な連携を目的とした検討会を開催し、行政の児童福祉関係者（14名）、里親会（1名）、医療関係者（5名）、大学の研究者（2名）が集まり、今後の連携について話し合いました。県内の不妊症看護認定看護師3名が参加しました。

午後は一般の方々にも参加をしていただけるオープン形式とし、立命館大学の団士郎教授より、「『べき』論を語るのではなく、家族の物語に耳を傾ける」という内容でご講演をいただきました。

団教授からは、社会の変化によって家族は変化をし、これが家族だというものはない。与えられた条件の中で幸せに暮らす努力をするのが「家族」である。視野を広げて家族を考えることが今日の社会では肯定的で温かいものであり、人々の幸せに繋がるものである。という暖かいメッセージをいただきました。講演後「家族のかたちシンポジウム」と題して、医療者（医師、看護職）、研究者、里親会、児童相談所より1名ずつのシンポジストが登壇し、午前中の検討会の内容を踏まえ、それぞれの立場での意見を発信しました。看護職は不妊症看護認定看護師より、社会的なリスクやシングルマザーなど出産後養育ができないケースが増加しており、その援助を模索していること、また不妊治療中の患者へは、治療以外の選択肢についていつ情報提供をするべきか、時期を判断する難しさが語られ、今後の課題提供となりました。



団士郎教授のご講演

参加者は一般の方々、里親当事者などを含め92名（内、医療関係者19名）であり、各方面の関心の高さを表す参加人数となりました。

今後の取り組みとして、子どもの福祉を最も大切に考え、児童福祉関係機関と医療機関がスムーズな連携がとれるシステムの確立を目指し、合同の検討会を定期開催していくことが決定しました。またアンケート結果からは法曹界からも介入を望む意見があり、今後連携を進めていく予定です。



関係機関検討会の様子

## 2014年度関東地区勉強会報告

報告者：梅ヶ丘産婦人科 荒木 依理

2014年12月21日（日曜日）聖路加国際病院トイスラーホールにて、「『がん・生殖医療』を知ろう！考えよう！」というテーマで勉強会を行い、40名の方が参加して下さいました。

医療の進歩によりがんのサバイバーの方々も増えると同時にQOLを考慮した妊孕力の温存という課題から「生殖とがん」に関連したテーマの勉強会やシンポジウムも多く開かれ周知されてきています。ただ、実際の現場では知識の浸透が十分でなかったり、対象者への関わり方にとまどうことも多く、今回の勉強会ではまず「がん・生殖医療」について基本的なことから学び、現場での対応に役立てることができればと議題に選びました。

講師に日本がん・生殖医療研究会、カウンセリング小委員会委員長の杉本公平先生をお迎えし、スライドを用いた基本的ながん・生殖医療に関する講義をして頂きました。

講義では、現在の妊孕性温存治療の実際、がん・生殖医療に関する研究会の立上げや動向などの最新情報によって、色んな分野からの連携と協力から成り立っていることを学びました。私たちは看護師としてその連携役に立ち、患者はもちろん、その家族背景まで目を配り、各専門担当を繋ぐという重要な役割が求められていることを知ることができました。

前半の講義の後は、実際にがん・生殖医療の現場で対象者に接した時どのように接しているか、また、どうしたらよいかという内容でグループディスカッションを行いました。今回は、がん看護認定看護師、不妊症看護認定看護師の方も多く参加頂き、大学病院やクリニックと色んな立場からの看護師が参加することで、有意義な意見交換ができたと思われまます。アンケートの結果から、ほとんど知識がなかったという参加者もあり、参加動機も「職場の勧め」や「必要性を感じたため」という声が聞かれる中で、がんと生殖が結びついていない現状からもこういった勉強会で情報を共有・拡散し、各専門職が情報交換できるような場が増えていくことは大切だと思います。自身もこのような機会を利用して研鑽を積み、不妊症看護認定看護師としてチームの中での役割が担えるよう努力したいと思えます。年末のお忙しい中、多数のご参加いただきありがとうございます。

不妊症看護認定看護師  
リレー寄稿

No.  
17

## 「不妊症看護領域における流産・死産のグリーフケア」

不妊症看護認定看護師（5期生）医療法人愛生会 扇町レディースクリニック

西尾 京子

当院ではタイミング療法、人工授精など自然妊娠に近い治療から体外受精・顕微授精・凍結胚移植など高度生殖医療も行っており、患者様の希望があれば妊娠20週までの妊婦管理を行っております。妊娠8週以降の妊婦は分娩病院に受診し基本的な妊娠管理は分娩施設にて行いますが、不妊治療後妊娠の適応支援や、自信喪失・不安増大に対するケアは継続して当院でも行っています。妊娠後、残念ながら流産される患者も存在し、それらの症例に対するグリーフケアは認定看護師としての自覚をもって展開している重要な看護の一つです。患者の心理状態について医師と綿密なコンタクトをとり以下の4つの重点項目における看護計画を立案しケアを展開します。①「流産」という現実を受け入れられるまでの時間的猶予を可能な限り設けること、②看護師は数回のカウンセリングを行い患者の感情表出を援助し混乱した感情を整理すること、③患者自らが「手術を受ける」という自己決定を行えるよう援助すること、④流産手術後は、患者の希望を確認した上で絨毛検体と対面してもらい「確かに存在した赤ちゃん」との対話の時間を設けること。



メッセージカード作成中



絨毛検体は花で飾り命を尊重します

現在までケアを行った症例の全てが絨毛検体との面談を希望され、家族で検体と話をされたり、手術後の安静ベッドで検体を抱きしめて涙を流されるなど、悲しみの感情を表出するためのケアにつながっています。自宅でもグリーフケアが行えるようにメッセージカードを作成し持ち帰って頂くようにしています。「流産・死産」という辛い経験は患者にとっては決して「なかったこと」にはできない事実であることを認識し、母親役割の確立、自尊心の尊重、そしてこれらの辛い体験が今後の治療への自信につながられるように看護スタッフ全員で取り組んでいます。患者のおかれている背景、家族のサポート体制、セルフケア能力も個性があり同じパターンで関わるできない難しいケアですが、「この子は確かに私のお腹に存在した」という幸せを感じてもらえる体験になるように、辛い体験が「妊娠できる」という自信に繋げられるように今後も看護を実践してゆきたいと思えます。

## もし不妊看護の現場で行き詰ったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいる患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや価値観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、詳細は学会ホームページをご覧ください。

## 理事会報告

### 平成26年度 第1回理事会

日時：2014（平成26）年 11月15日（土）

18時～20時50分

場所：聖路加国際大学本館5階506

出席：野澤、森明、村本、上澤、岸田、清水、橋村、菅野、實崎、遠藤、小松原（学術大会長）

#### 【報告事項】

1. 第12日本生殖看護学会学術集会：参加者数、アンケート結果、反省・改善点、寄付を報告。
2. 銀行による不妊治療費のローンのパンフレット設置について：学術集会で協力を依頼することで同意。
3. 広報委員会：NL 発行時期、内容の報告。
4. 教育推進委員会：報告事項なし。
5. 実践開発委員会：ファイン祭り相談員状況、ファインからの派遣依頼の受託の報告。
6. 編集委員会：学会誌第12巻の発刊に向けての進捗状況、論文投稿数について報告。
7. 総務：H26年度役職・委員会構成、総務年間活動計画、理事会スケジュール、選挙管理委員会立ち上げの報告。
8. 将来検討委員会：報告事項なし。
9. 会計：編集委員会への金額の修正について報告。
10. 看保連対応 WG：看保連の診療報酬改定に関する意向調査への要望書の提出について報告。
11. 健やか親子21推進協議会 WG：「健やか親子（第2次）」の更なる推進にむけた意向調査に対する回答について報告。
12. 在宅自己注射マニュアル作成 WG：調査票の検

討について報告。

13. その他：日本看護系学会協議会の平成26年度臨時総会への出席者について報告。

#### 【審議事項】

1. 入会・退会審査：4名の入会が承認。2名の退会も承認。14名の強制退会者が提示され、一部の該当者に意思確認をとることを確認。
2. 第13回学術集会企画委員会での決定事項について：第1回企画委員会の報告。メインテーマとタイムスケジュールについて検討。
3. 第14回学術集会大会長について：東北大学病院の高橋恵美子氏を承認。本人の内諾を得ていたが所属施設の承諾も得られた旨の報告。
4. 選挙管理委員会立ち上げについて：京野アートクリニック・大野雅代氏を含む計3名を委員候補者として推薦。
5. 学会の将来構想（案）について：将来構想検討コアメンバーミーティング議事録に基づき報告。

### 第1回臨時（書面）理事会

日時：2014年11月26日（水）

場所：書面による。

#### 【審議事項】

1. 選挙管理委員について：承認が得られ、以下の3名に決定した。  
大野雅代（京野アートクリニック高輪）、青柳優子（順天堂大学医療看護学部）、朝澤恭子（東京医療保健大学東が丘・立川看護学部）

## 日本生殖看護学会 理事および監事選挙告示

選挙は、「日本生殖看護学会理事および監事の選出規程」に則って実施されます。

選挙管理委員が組織されました。次期の理事および監事選挙に関して、この選挙管理委員会が責任を持って執り行わせていただきます。

選挙管理委員会 委員長：青柳優子  
委員：大野雅代、朝澤恭子

下記のとおり理事および監事選挙が実施されます。

投票用紙は、各選挙人の連絡先にお送りしますので、送付される所定の用紙を使って指定の期日までに投票して下さい。

### 1. 選挙人および被選挙人

平成27年3月31日までに会費を納入した会員を選挙人および被選挙人としてします。

### 2. 選挙の実施および方法

- |             |                                                            |
|-------------|------------------------------------------------------------|
| (1) 投票締め切り  | 平成27年5月8日（金）（当日消印有効）                                       |
| (2) 投票用紙送付先 | 〒279-0023 千葉県浦安市高洲2-5-1<br>順天堂大学医療看護学部<br>日本生殖看護学会選挙管理委員会宛 |
| (3) 開票      | 平成27年5月15日（金）                                              |

## 事務局からのお知らせ

- 今年度は理事および監事選挙が行われます。会員の皆様には選挙人・被選挙人の資格と関わりますので、選挙告示をお読みいただき、納入期限をお確かめの上、会費納入をお願いいたします。
- 異動の季節がまいります。転職・転居された方、あるいは今春転職・転居を予定されている方は必ず事務局までご連絡願います。ニュースレター、学会誌はメール便を使用しているため、郵便と異なり、転送されませんのでご注意ください。
- 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mail もしくは Fax で、気軽にお知らせください。
- 会員数337名（平成26年1月現在）です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

## 次号の原稿締切日

ニュースレター第41号の原稿締切日は、2015年5月18日（月）を予定しています。学術集会や研修会等への参加報告、勉強会開催のお知らせなど、会員の皆さまへの周知の場としてご活用ください。

### 編集後記

今年の4月から5月にかけて役員選挙が行われます。会員の皆さまには3月末日までの会費の納入と投票をお願いいたします。また、ご所属先や住所の変更はお早めに事務局までご連絡ください。

広報委員：上澤悦子、實崎美奈

### 日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加国際大学内

TEL & FAX 03-5550-2293

E-mail: jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>